

令和6年度 “社会を明るくする運動”可児地区作文コンテスト

小学生の部

可児地区更生保護女性の会 会長賞

「人がよろこんでくれることをできる場所」

可児市立桜ヶ丘小学校 5年

熊谷 彩

わたしのいとは、学校でくつをかくされたり、死ね・キモイ等悲しい言葉を言われています。聞いていて、私もつらいし、もっとなんで、みんなでいこのことを守ってあげないのだろう・・・やっている子たちにも注意しないのだろうと許せない気持ちや、モヤモヤした気持ちがあります。わたしも、いところほどではないけれど、体型のことをわらいながらみんなに言われたり、一人ぼっちにされたり無視されたりして、すごくつらくなって、学校に行かなくなったことがあります。自分だけの力ではどうしようもない時、わたしは母や、友達のお母さんにいっぱい助けてもらいました。母は、車の一番見えるところに、毛糸でわたしが作ったニット帽のマスコットを九個、置いていました。

「なんで、こんなにたくさん置くの？」

と母に聞くと、

「これは、目印だよ。これを見たら、助けてほしい子がいつでも手をあげられるでしょ。もしかしたら、いじめている子も、困っていて助けてほしい子かもしれないから。」

と母は言いました。母は、私のことも大切にしてくれているけれど、わたしが元気であるためにも、桜ヶ丘小学校の子、みんなを助けたいと思っているのだなあと思いました。もしかしたら、いところにひどいことをしている子たちも、家でお父さんやお母さんに助けてって言えないのかもしれない、そんなことを考えました。母のように、親や先生、近くにいる大人の人たちが、もっともっと話を聞いてくれたら、注意をするよりも、いところが助かるのかもしれない。わたしは、前期、放送委員の仕事をしています。学級ではポスト係の仕事もしています。

「彩さん、放送、とても聞きやすかったよ。」

「ポストの中の物を持ってきてくれてありがとう。」

と言われると、とてもやる気になるし、心があたたかくなります。みんなの役に立っていることが、何よりもうれしいのです。人をいじめたり、犯罪や非行にはしってしまったら、

「〇〇さんのおかげで助かったよ。ありがとう。うれしいよ。」

とわたしが、言われてうれしかった言葉を、近くにいる友達や大人がかけることが一番だと思います。どの人にも、すごくいいところがあります。わたしのいこのいいところは、やさしいところ。最近、ゲームばかりやっていて少し心配しているけれど、いところにも人が

よろこんでくれることをできる場所があるといいなと思っています。

小学校は、同じ年の友達が、教室にいっぱいいます。気があう子も、あわない子もいます。

学校だけでなく色々な場所で

「〇〇さんのおかげ。ありがとう」

と言われることが、元気でえがおな人を増やすことになります。そういう人が増えれば、社会はどんどん明るく、犯罪のおこらない地域にもなっていくと思います。桜ヶ丘小学校がじめのない、犯罪のない、えがおがいっぱいの学校になるように、わたしはできることをやっています。友達にやさしくすること、大きな声であいさつするのは苦手だけど、えがおでえしゃくはできます。思っているだけではなくて、行動していくことを大切にしていきたいと思います。